

ソフトウェアマニュアル  
オペレーション

HIDIC  
S10 シリーズ

# CPMSデバッグ For Windows<sup>®</sup>

**2α**  
シリーズ

対象機種  
HIDIC-S10/2

NESP-S25E

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。  
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問合わせください。

1997年12月 (第1版) SAJ-3-125(A) (廃版)  
1999年10月 (第2版) SAJ-3-125(B) (廃版)  
2000年 9月 (第3版) SAJ-3-125(C) (廃版)  
2003年 5月 (第4版) SAJ-3-125(D)

このマニュアルの一部、または全部を無断で転写したり複写することは、固くお断りいたします。  
このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。



## 安全上のご注意

システムの構築やプログラムの作成などは、このマニュアルの記載内容をよく読み、書かれている指示や注意を十分理解してから行ってください。誤操作により、システムが故障することがあります。

このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、手近なところに保管してください。このマニュアルの記載内容について疑問点または不明点がございましたら、最寄りの当社営業またはSEまでお知らせください。

お客様の誤操作に起因する事故発生や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供ソフトウェアを改変して使用した場合に発生した事故や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供以外のソフトウェアを使用した場合の信頼性については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

ファイルのバックアップ作業を日常業務に組み入れてください。ファイル装置の障害、ファイルアクセス中の停電、誤操作、その他何らかの原因によりファイルの内容を消失することがあります。このような事態に備え、計画的にファイルのバックアップを取っておいてください。

当社製品が故障や誤動作したりプログラムに欠陥があった場合でも、使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、保護・安全回路は外部に設け、人身事故や重大な災害に対する安全対策が十分確保できるようなシステム設計としてください。

非常停止回路、インタロック回路などはPLCの外部で構成してください。PLCの故障により、機械の破損や事故の恐れがあります。

運転中のプログラム変更、強制出力、RUN、STOPなどは十分安全を確認してから行ってください。誤操作により、機械の破損や事故の恐れがあります。

# はじめに

CPMSデバッグシステムをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このシステムは、パーソナルコンピュータ上で動作し、PCsで動作するタスクの登録や起動、削除、また各アドレスのビット状態のモニタ、およびシステムの状態表示を実行します。

このマニュアルは、CPMSデバッグシステムにおける操作方法について記述してあります。

このマニュアルは、下記バージョンのシステムに対応しています。

システム名称およびバージョン
CPMSデバッグシステム For Windows® 07-02

バージョン05-00以前のシステムは、Microsoft® Windows® 98 operating systemに対応していません。Microsoft® Windows® 95 operating systemのみの対応となります。

NESP ( Nissan Electronic Sequence Processor ) シリーズは、下記の対応を参照のうえ使用してください。

【HIDIC-S10 シリーズ】	【NESPシリーズ】
HIDIC-S10/2	..... NESP-S25E

## < 商標について >

- Microsoft® Windows® operating system, Microsoft® Windows® 95 operating system, Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® 2000 operating system, Microsoft® Windows® XP operating systemは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
  - Ethernetは米国Xerox Corp.の登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

## Windows® 2000, Windows® XP対応システムについて

Microsoft® Windows® 2000 operating system (以降、Windows® 2000と略します。), Microsoft® Windows® XP operating system (以降、Windows® XPと略します。)対応のシステムは、下記一覧のとおりです。

下記一覧のバージョンより古いバージョンのシステムは、Windows® 2000, Windows® XPに対応していませんので、Microsoft® Windows® 95 operating system (以降、Windows® 95と略します。), Microsoft® Windows® 98 operating system (以降、Windows® 98と略します。)のみの対応となります。(下記一覧のシステム名は、以降、各システムと略します。)

### < Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧 >

No.	システム名	型式	バージョン	Windows® 2000	Windows® XP
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	07-05		
2	ラダー図システム	S-7890-02	07-05		
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	07-02		
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	07-04		
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	07-04		
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	07-02		
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	07-02		
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	07-01		
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	08-01		
10	RPDP/S10 SYSTEM	S-7891-10	03-03	(*2)	× (*1)
11	NX/ACP-S10	S-7891-11	01-02	(*2)	× (*1)
12	NX/Ladder	S-7891-12	02-01	(*2)	× (*1)
13	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	07-02		
14	NX/HOST-S10	S-7890-14	07-01		
15	4 ラダー図システム	S-7890-17	07-05		
16	4 Hラダー図システム	S-7890-18	07-05		
17	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	06-01		
18	H7338サポートシステム	S-7890-20	07-01		
19	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	07-01		
20	CPU間リンクシステム	S-7890-22	07-01		
21	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	07-01		
22	外部機器リンクシステム	S-7890-24	07-02		
23	S10ET LINKシステム	S-7890-25	07-02		
24	J.NETシステム	S-7890-27	07-02		
25	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	07-03		
26	ET.NETシステム	S-7890-29	07-01		
27	FL.NETシステム	S-7890-30	07-03		
28	D.NETシステム	S-7890-31	07-04		
29	BSCシステム	S-7890-32	07-01		
30	HDLCシステム	S-7890-33	07-01		
31	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	07-04		
32	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	07-01		
33	IR.LINKシステム	S-7890-36	07-02		
34	クロスCコンパイラ (メンター・グラフィックス・ジャパン株式会社製)	MCP68K	5.3	(*2)	× (*1)

: 対応、× : 非対応

(\*1) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® XPに非対応のため、Windows® 2000で使用してください。

(\*2) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® 2000対応版 (バージョン5.3以降) が前提です。

<用語の定義>

- Nコイル : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したラダープログラムです。
- プロセス : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したHI-FLOWプログラムです。
- コンパイル : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムをPCsで実行できる形態（Nコイル、プロセスなど）に変換します。
- ビルド : 修正したアプリケーションプログラムのみコンパイルします。
- リビルド : 存在するすべてのアプリケーションプログラムをコンパイルします。
- シート : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムなどを作成するための用紙で、パソコン上で管理します。
- PCs : Programmable Controllersの略です。  
S10 およびS10miniシリーズ等のPLCの総称です。
- PLC : Programmable Logic Controllerの略です。  
プログラム内蔵方式でシーケンス制御をする工業用電子装置です。  
S10 およびS10miniシリーズ等もPLCに該当します。

<記憶容量の計算値についての注意>

2<sup>n</sup>計算値の場合（メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など）

1KB（キロバイト）= 1,024バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,048,576バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,073,741,824バイトの計算値です。

10<sup>n</sup>計算値の場合（ディスク容量など）

1KB（キロバイト）= 1,000バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,000<sup>2</sup>バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,000<sup>3</sup>バイトの計算値です。

# 目 次

1	ご使用にあたり .....	1
1.1	システムの概要 .....	2
1.2	必要なハードウェアとソフトウェア .....	2
2	システムインストール .....	5
2.1	インストール .....	6
2.2	アンインストール .....	7
2.3	システム立ち上げ .....	8
2.4	システム終了 .....	10
3	コマンド .....	11
3.1	コマンド体系 .....	12
3.2	システムプログラム転送 .....	13
3.3	タスク登録 .....	14
3.4	タスク削除 .....	14
3.5	タスク状態表示 .....	15
3.6	タスクRelease .....	16
3.7	タスクQueue .....	16
3.8	タスクAbort .....	17
3.9	タスク周期起動 .....	17
3.10	タスク周期起動解除 .....	18
3.11	ブレークポイント .....	19
3.12	システムエラー .....	21
3.13	システム表示 .....	23
3.14	現在時刻表示 .....	23
3.15	マトリクスモニタ .....	24
3.16	MCS .....	25
3.17	接続PCs変更 .....	26

# 1 ご使用にあたり



## 1 ご使用にあたり

このマニュアルは、Windows®パソコンプログラミングのユーザを対象としています。

### 1.1 システムの概要

CPMSデバッガFor Windows®（以降、CPMSデバッガと略します。）は、一般的なWindows®アプリケーションと等価なオペレーションによりHIDIC-S10/2用CPMSデバッガのシステムプログラム転送、タスクの登録や起動、そのモニタなどができます。

### 1.2 必要なハードウェアとソフトウェア

各システムを使用するためには、以下のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

<パーソナルコンピュータ（以降、パソコンと略します。）>

項目	OS	Windows® 95 (*1)	Windows® 2000 (*1)	Windows® XP (*1)
		Windows® 98 (*1)		(*2)
CPU		Pentium 133MHz以上	Pentium 300MHz以上	
メモリ (RAM)		32MB以上	64MB以上	128MB以上
空きハードディスク容量 (*3)		20MB以上 / システム (ただし、OSインストール、オプションジョーナルハードウェアは、10MB以上 / システム)		
FDドライブ		1台以上 (FDにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
CD-ROMドライブ		1台以上 (CD-ROMにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
イーサネット (10BASE-T)		1ポート以上 (パソコンとET.NETモジュールを接続する場合に必要)		
シリアル (D-sub9ピン)		1ポート以上 (PCsとパソコンをRS-232C接続する場合、またはET.NETモジュールにIPアドレスを設定する場合に必要)		
PCカード (PC Card Standard (JEITA V4.2) 準拠TYPE またはTYPE )		1スロット以上 (パソコンとパラレルインタフェースモジュール (LWZ400) を接続する場合、下記GP-IBカードと共に必要) GP-IBカード: PCMCIA-GPIB (型番: 777438-02) (日本ナショナルインスツルメンツ株式会社製)		
ディスプレイ		800 × 600ピクセル以上の解像度		
Microsoft® Internet Explorer		バージョン4.01以降		

(\*1) OSのサービスパックはソフトウェア添付資料を参照してください。

(\*2) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 34を除きます。

(\*3) 各システムをインストールするために必要な容量です。さらにユーザプログラム保存用の空き容量が必要です。

<パソコン以外のハードウェア>

- ・HIDIC-S10 シリーズCPU (2 )
- ・HIDIC-S10 シリーズ電源
- ・HIDIC-S10 シリーズバックボード
- ・パソコンとPCs間の接続ケーブル
- ・必要に応じたりモートI/Oステーション、電源、バックボード、カードおよび配線ケーブル

留意事項
この製品を使用するユーザは、Windows®環境およびユーザインタフェースについての知識が必要です。このシステムは、Windows®標準に従っています。このマニュアルは、基本となるWindows®の使用法を習得しているユーザを対象にして記述されています。

パソコン設定上の注意
サスペンド機能を持ったパソコンを使用する場合は、サスペンド機能をOFFにしてください。このシステムを実行中にサスペンド機能が動作すると、正常に動作しないことがあります。

## 2 システムインストール

## 2 システムインストール

### 2.1 インストール(\*)

まず、お手元のCDが正しいものか確認してください。

各システムをインストールするには、システムのCDのDISK1フォルダに格納されているSetup.exeをダブルクリックします。インストール後、インストールしたプログラムの画面は表示されません。

なお、各システムをインストールするためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。もし、インストールされていない場合は、インストール後に各システムをインストールしてください。

#### 注 意

各システムを動作させるためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。インストールされていない場合、各システムが正常に動作しません。各システムをインストールする前に、すべてのWindows®プログラムを必ず終了してください。ウイルス監視ソフトウェアなどメモリに常駐しているプログラムも必ず終了してください。終了せずにインストールすると、エラーが発生する場合があります。その場合は、「2.2 アンインストール」を参照して、一旦システムをアンインストールし、すべてのWindows®プログラムを終了してから、再度各システムをインストールしてください。Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。「制限付きアカウント」では各システムが正常に動作しません。

(\*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

## 2.2 アンインストール(\*)

バージョンアップ時などのアンインストールは、以下の手順で行います。

### (1) Windows® 95, Windows® 98からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックし、[セットアップと削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

### (2) Windows® 2000からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

### (3) Windows® XPからのアンインストール

[スタート]メニューの([設定] - ) [コントロールパネル]を開きます。[プログラムの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの([設定] - ) [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

デスクトップ等に、各システム実行ファイルのショートカットを作成した場合は、そのショートカットを削除してください。

## 注 意

Windows®でアンインストール中に[共有ファイルを削除しますか?]画面が表示された場合は、 ボタンをクリックして共有ファイルを削除しないでください。

Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。

Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。

Windows® 2000を使用してアンインストール時、[アプリケーションの追加と削除]画面がロック(操作不能)状態となった場合は、Windows®の[スタート]メニューの[シャットダウン]から一旦ログオフし、再度[Windowsへログオン]画面にてログオンしてください。

(\*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

## 2 システムインストール

### 2.3 システム立ち上げ(\*)

(1) 各システムでインストールされるシステムは、Windows®の[スタート]メニューに自動的に登録されます。この[スタート]メニューから、[(すべての)プログラム] - [Hitachi S10] - 「各システム」を選択して起動してください。

各システムをインストール時にログオンしたユーザ名と、各システムを起動するユーザ名が異なる場合、各システムが[スタート]メニューに表示されません。その場合は、下記の各システムの実行ファイル(拡張子.exe)のショートカットをデスクトップ等に作成し、そのショートカットをダブルクリックして各システムを起動してください。

#### <実行ファイル格納ディレクトリー一覧>

No.	システム名	型式	実行ファイル格納ディレクトリ(*1)	実行ファイル名
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	C:\¥Hitachi¥S10	S10Ladder.exe S10Tool.exe
2	ラダー図システム	S-7890-02	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDC	S10Ladder.exe
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	C:\¥Hitachi¥S10¥HF	S10Tool.exe
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMS	Cpms.exe
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMSE	Cpmse.exe
6	CPMSデバuggシステム	S-7890-06	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUG	Debugger.exe
7	CPMSEデバuggシステム	S-7890-07	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUGE	DebuggerE.exe
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	C:\¥Hitachi¥S10¥GPIB	Gpib.exe
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	C:\¥Hitachi¥S10¥BACKUP	SysAllSaveLoad.exe
10	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	C:\¥Hitachi¥S10¥NX	NXTool.exe
11	4 ラダー図システム	S-7890-17	C:\¥Hitachi¥S10¥4ALDC	S10Ladder_4A.exe
12	4 Hラダー図システム	S-7890-18	C:\¥Hitachi¥S10¥4AHLDC	S10Ladder_4AH.exe
13	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	C:\¥Hitachi¥S10¥CFCONV	Cfconv.exe
14	H7338サポートシステム	S-7890-20	C:\¥Hitachi¥S10¥H7338	H7338.exe
15	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	C:\¥Hitachi¥S10¥HISRIO	HiSpeedRIO.exe
16	CPU間リンクシステム	S-7890-22	C:\¥Hitachi¥S10¥CPULINK	CpuLink.exe
17	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	C:\¥Hitachi¥S10¥ANALOG	AnalogPuls.exe
18	外部機器リンクシステム	S-7890-24	C:\¥Hitachi¥S10¥EXLINK	ExLink.exe
19	S10ET LINKシステム	S-7890-25	C:\¥Hitachi¥S10¥ETLINK	EtherNet.exe
20	J.NETシステム	S-7890-27	C:\¥Hitachi¥S10¥JNET	JNet.exe
21	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	C:\¥Hitachi¥S10¥ODRING-SDLINK	ODRing.exe
22	ET.NETシステム	S-7890-29	C:\¥Hitachi¥S10¥ETNET	Et_Net.exe
23	FL.NETシステム	S-7890-30	C:\¥Hitachi¥S10¥FLNET	FLnet.exe
24	D.NETシステム	S-7890-31	C:\¥Hitachi¥S10¥DNET	DNet.exe
25	BSCシステム	S-7890-32	C:\¥Hitachi¥S10¥BSC	BSC.exe
26	HDLCLシステム	S-7890-33	C:\¥Hitachi¥S10¥HDLCL	HDLCL.exe
27	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDCM	S10LadderM.exe
28	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	C:\¥Hitachi¥S10¥HFM	S10ToolM.exe
29	IR.LINKシステム	S-7890-36	C:\¥Hitachi¥S10¥IRLINK	IrLink.exe

(\*1) インストール先ドライブ名が「C」の場合のディレクトリ名です。

(\* ) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

- (2) [通信種類]画面が表示されますので、使用する通信種類を選択し **OK** ボタンをクリックします（「3.17 接続PCs変更」を参照）。
- 先の設定から変更しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。



- (3) [CPMSデバッガ]画面が表示されます。この状態でCPMSデバッガは立ち上がっています。この後は、目的のコマンドのボタンをクリックしてください。



図 2 - 1 [CPMSデバッガ]画面

## 2 システムインストール

---

### 2.4 システム終了

[CPMSデバッガ]画面(図2-1参照)において、 または  ボタンをクリックします。



## 3 コマンド

## 3 コマンド

---

### 3.1 コマンド体系

CPMSデバッガのコマンド体系を以下に示します。

コマンドの概要を3.2節以降に示します。コマンドの詳細については、ヘルプを参照してください。

コマンド

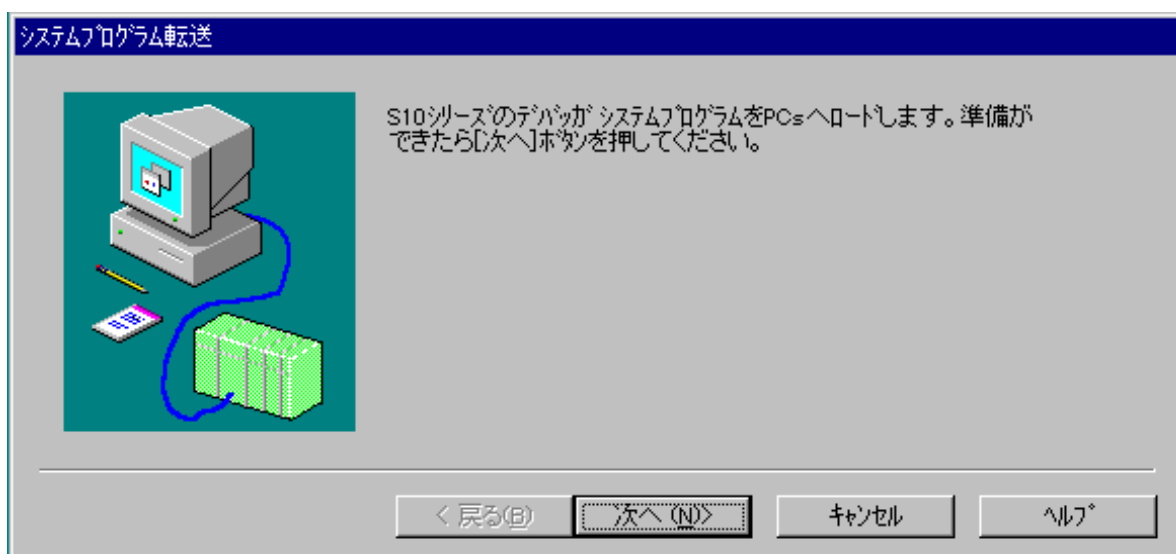
- システムプログラム転送
- タスク登録
- タスク削除
- タスク状態表示
- タスクRelease
- タスクQueue
- タスクAbort
- タスク周期起動
- タスク周期起動解除
- ブレークポイント
- システムエラー
- システム表示
- 現在時刻表示
- マトリクスモニタ
- MCS
- 接続PCs変更

## 3. 2 システムプログラム転送

機能：CPMSデバッガのシステムプログラムをPCsに転送します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**システムプログラム転送** ボタンをクリックします。
- (2) [システムプログラム転送]画面が表示されます。



- (3) **次へ** ボタンをクリックすると転送します。転送しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### システムプログラム転送に関する注意

デバッガ機能を使用する際には必ずシステムプログラム転送をしておいてください。  
システムプログラム転送をしていない状態では、3. 3節以降のコマンドを使用できません。

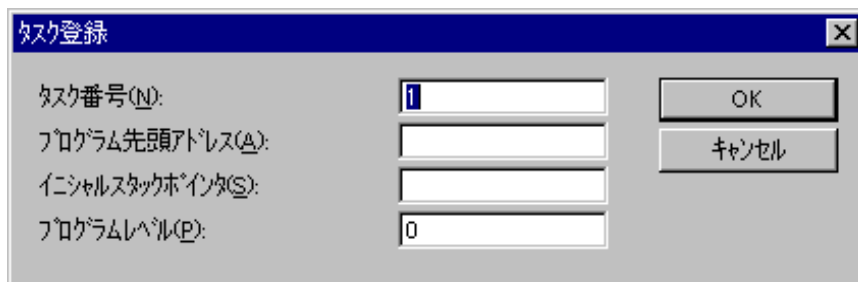
### 3 コマンド

#### 3.3 タスク登録

機能：タスクを登録します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**タスク登録** ボタンをクリックします。
- (2) [タスク登録]画面が表示されます。「タスク番号」、「プログラム先頭アドレス」、「イニシャルタスクポインタ」および「プログラムレベル」を設定します。



タスク登録

タスク番号(N):	<input type="text" value="1"/>	OK
プログラム先頭アドレス(A):	<input type="text"/>	キャンセル
イニシャルスタックポインタ(S):	<input type="text"/>	
プログラムレベル(P):	<input type="text" value="0"/>	

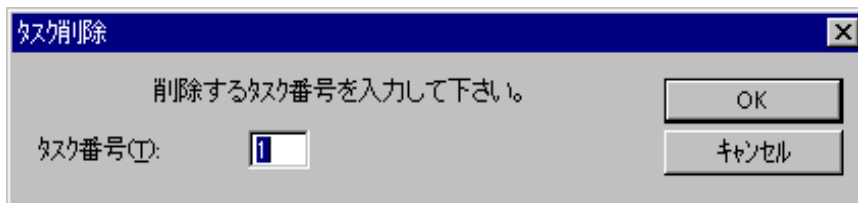
- (3) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。登録しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

#### 3.4 タスク削除

機能：タスクを削除します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**タスク削除** ボタンをクリックします。
- (2) [タスク削除]画面が表示されます。「タスク番号」を入力します。



タスク削除

削除するタスク番号を入力して下さい。

タスク番号(T):	<input type="text" value="1"/>	OK
		キャンセル

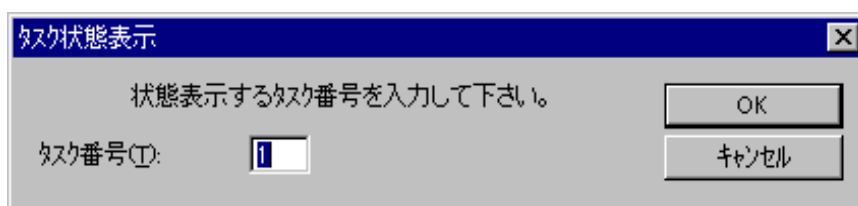
- (3) 入力終了したら、**OK** ボタンをクリックします。削除しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### 3. 5 タスク状態表示

機能：タスク状態を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**タスク状態表示** ボタンをクリックします。
- (2) [タスク状態表示]画面が表示されます。設定する「タスク番号」を入力し、**OK** ボタンをクリックします。  
状態表示しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。



- (3) [タスク状態表示]画面が表示されます。



- (4) タスク状態を確認したら、**閉じる** ボタンをクリックします。  
次のタスク番号を表示する場合は、**次タスク** ボタンをクリックします。  
前のタスク番号を表示する場合は、**前タスク** ボタンをクリックします。

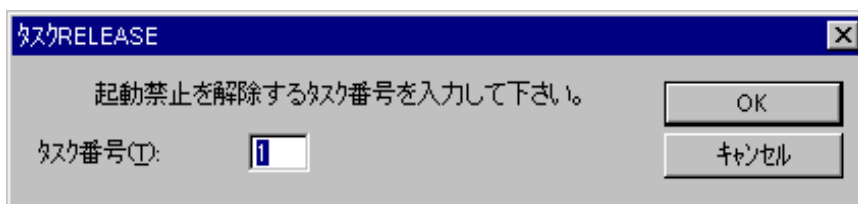
### 3 コマンド

#### 3.6 タスクRelease

機能：タスクの起動禁止を解除します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**タスクRelease** ボタンをクリックします。
- (2) [タスクRELEASE]画面が表示されます。「タスク番号」を入力します。



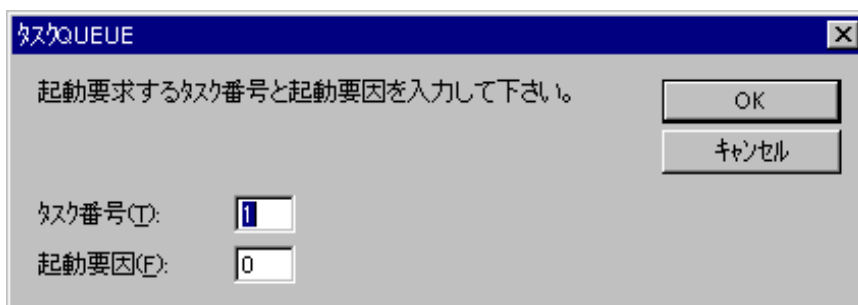
- (3) 入力が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。解除しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

#### 3.7 タスクQueue

機能：タスクの起動要求をします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**タスクQueue** ボタンをクリックします。
- (2) [タスクQUEUE]画面が表示されます。「タスク番号」と「起動要因」を入力します。



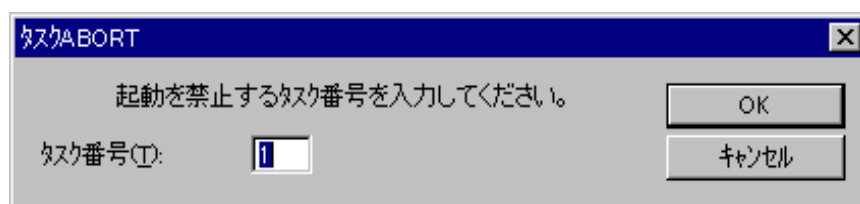
- (3) 入力が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。解除しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### 3. 8 タスクAbort

機能：タスクの起動を禁止します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッグ]画面から、**タスクAbort** ボタンをクリックします。
- (2) [タスクABORT]画面が表示されます。「タスク番号」を入力します。



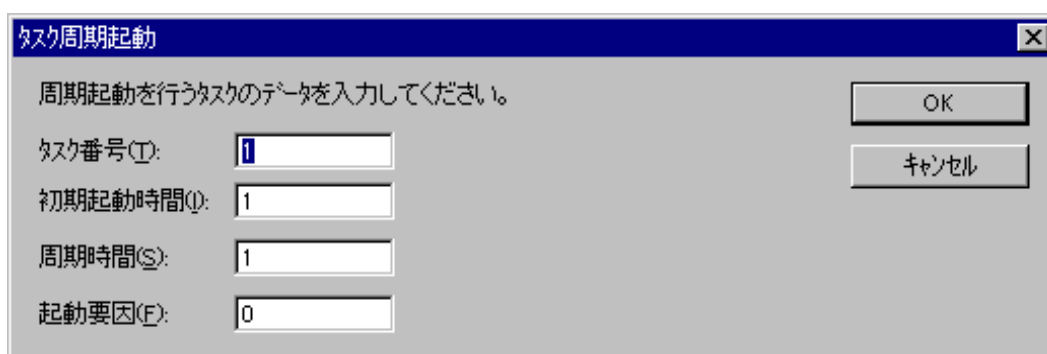
- (3) 入力が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。解除しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### 3. 9 タスク周期起動

機能：タスクの周期起動を設定します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッグ]画面から、**タスク周期起動** ボタンをクリックします。
- (2) [タスク周期起動]画面が表示されます。「タスク番号」、「初期起動時間」、「周期時間」および「起動要因」を入力します。



- (3) 入力が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

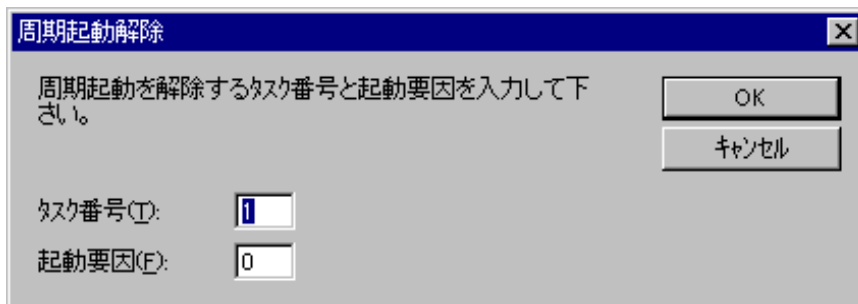
### 3 コマンド

#### 3.10 タスク周期起動解除

機能：タスクの周期起動を解除します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**タスク周期起動解除** ボタンをクリックします。
- (2) [周期起動解除]画面が表示されます。「タスク番号」と「起動要因」を入力します。



- (3) 入力終了したら、**OK** ボタンをクリックします。解除しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。



### 3.11 ブレークポイント

機能：ブレークポイントを設定および解除します。

操作：以下に操作手順を示します。

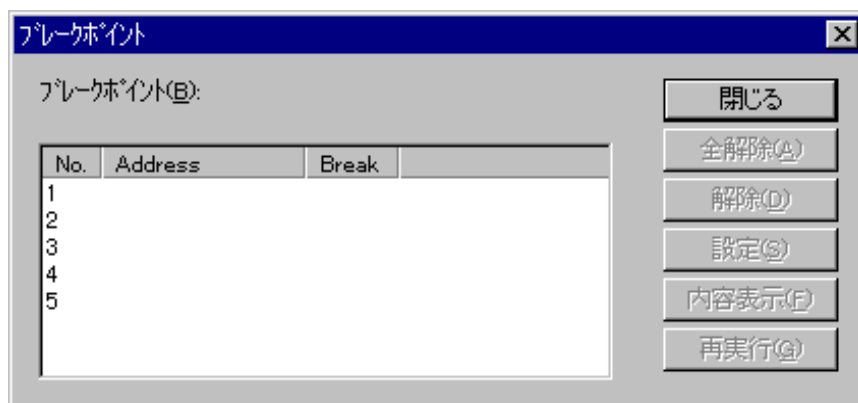
(1) [CPMSデバッガ]画面から、**ブレークポイント** ボタンをクリックします。

(2) [ブレークポイント]画面が表示されます。

**全解除** ボタンをクリックすると、ブレークポイントがすべて解除されます。

解除する「No.」をクリックし、**解除** ボタンをクリックすると、選択したブレークポイントを解除します。

設定する「No.」をクリックし、**設定** ボタンをクリックします。



(3) [アドレス]画面が表示されます。「ブレークポイントアドレス」を入力します。



(4) 入力が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。入力しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

### 3 コマンド

- (5) ブレーク発生状態から [ブレークポイント] 画面で **内容表示** ボタンをクリックすると、[レジスタ内容] 画面が表示されます。「プログラムカウンタ」、「ステータスレジスタ」、ユーザスタックポインタデータレジスタおよびアドレスレジスタを設定します。

レジスタ名	値
プログラムカウンタ	00140000
ステータスレジスタ	0000
D0	00000000
D1	000F03E8
D2	000FA104
D3	00000007
D4	76B00000
D5	00000000
D6	00800000
D7	00000007
A0	00101296
A1	76B00000
A2	0EEA0002
A3	00104898
A4	000F03E8
A5	000F8900
A6	000F8CFC
A7	00140FFC

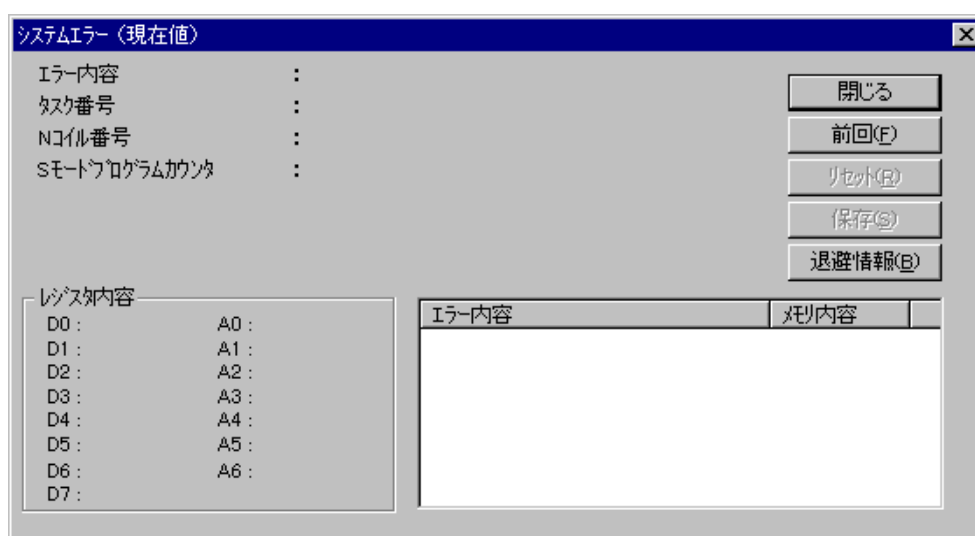
- (6) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

## 3.12 システムエラー

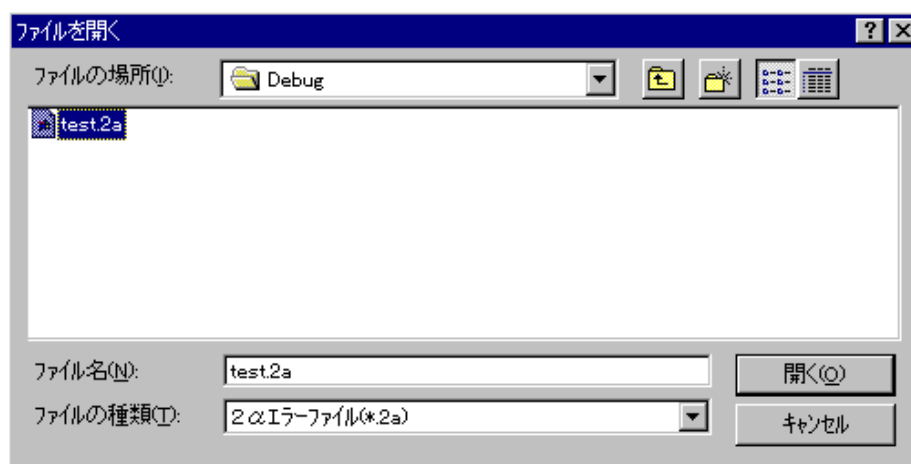
機能：システムエラーを表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**システムエラー** ボタンをクリックします。
- (2) [システムエラー]画面が表示されます。



前回のエラー情報を表示する場合は、**前回** ボタンをクリックします。[ファイルを開く]画面が開きます。



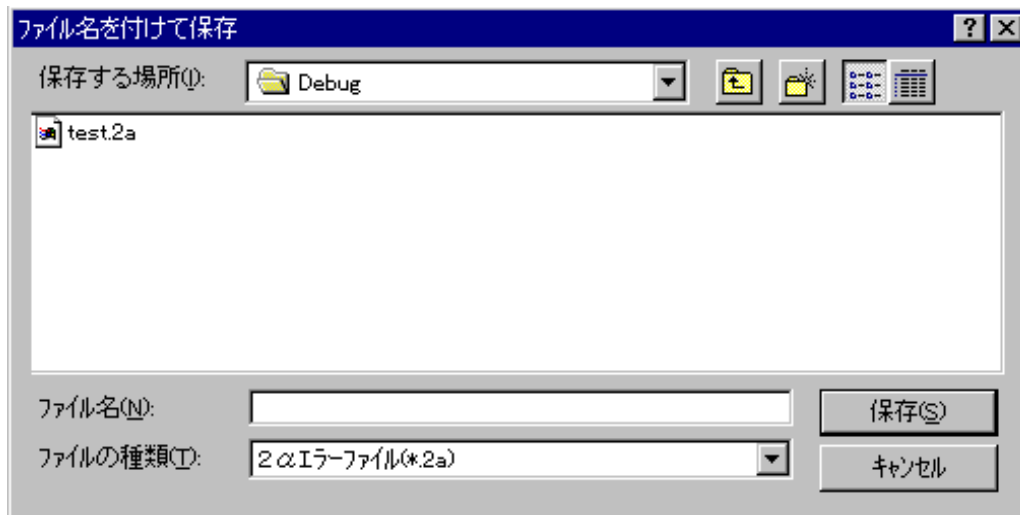
参照する前回エラー情報の「ファイル名」を設定し、**開く** ボタンをクリックすると、前回のエラー情報が表示されます。前回のエラー情報を表示しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。また、前回のエラー情報表示状態から現在のエラー情報を表示するときは、**現在** ボタンをクリックします。

### 3 コマンド

---

現在のエラー情報をクリアする場合は、**リセット** ボタンをクリックします。

現在のエラー情報を保存する場合は、**保存** をクリックします。[ファイル名を付けて保存]画面が開きます。



保存する「ファイル名」を指定し、**保存** ボタンをクリックすると、エラー情報ファイルが保存されます。保存しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

PCsに保存されている前回のエラー情報を表示する場合は、**退避情報** ボタンをクリックします。

(3) システムエラーを確認したら、**閉じる** ボタンをクリックします。

### 3.13 システム表示

機能：システムの状態を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ CPMSデバッグ ] 画面から、 **システム表示** ボタンをクリックします。
- (2) システム状態表示の [ CPMSデバッカ ] 画面が表示されます。



- (3) システム状態を確認したら、 **OK** ボタンをクリックします。

### 3.14 現在時刻表示

機能：現在時刻を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ CPMSデバッグ ] 画面から、 **現在時刻表示** ボタンをクリックします。
- (2) [ 現在時刻 ] 画面が表示されます。



- (3) 現在時刻を変更する場合は、それぞれの入力エリアに入力し、 **OK** ボタンをクリックします。  
変更しない場合は、 **キャンセル** ボタンをクリックします。

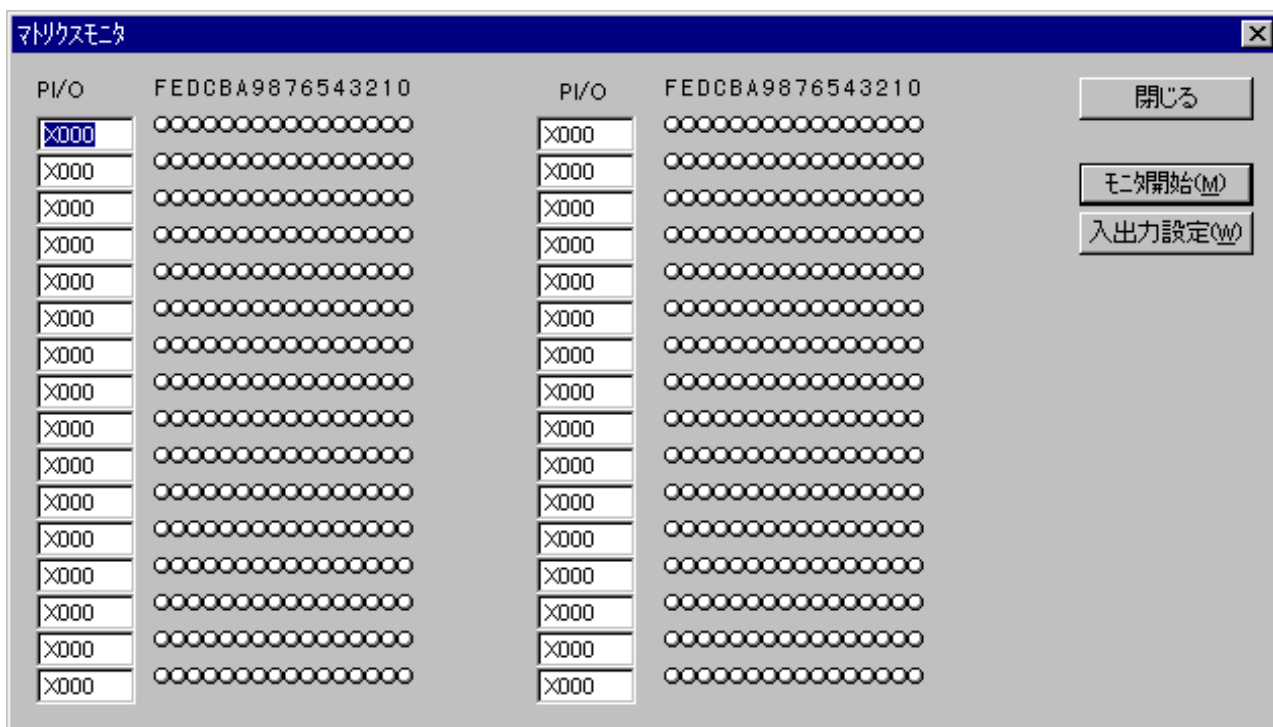
### 3 コマンド

#### 3.15 マトリクスモニタ

機能：マトリクスモニタを表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッガ]画面から、**マトリクスモニタ** ボタンをクリックします。
- (2) [マトリクスモニタ]画面が表示されます。



- (3) モニタする「PI/O」を入力し、**モニタ開始** ボタンをクリックするとモニタします。  
また、設定したPI/Oに値を設定する場合は、**入出力設定** ボタンをクリックします。  
[入出力設定]画面が開きます。



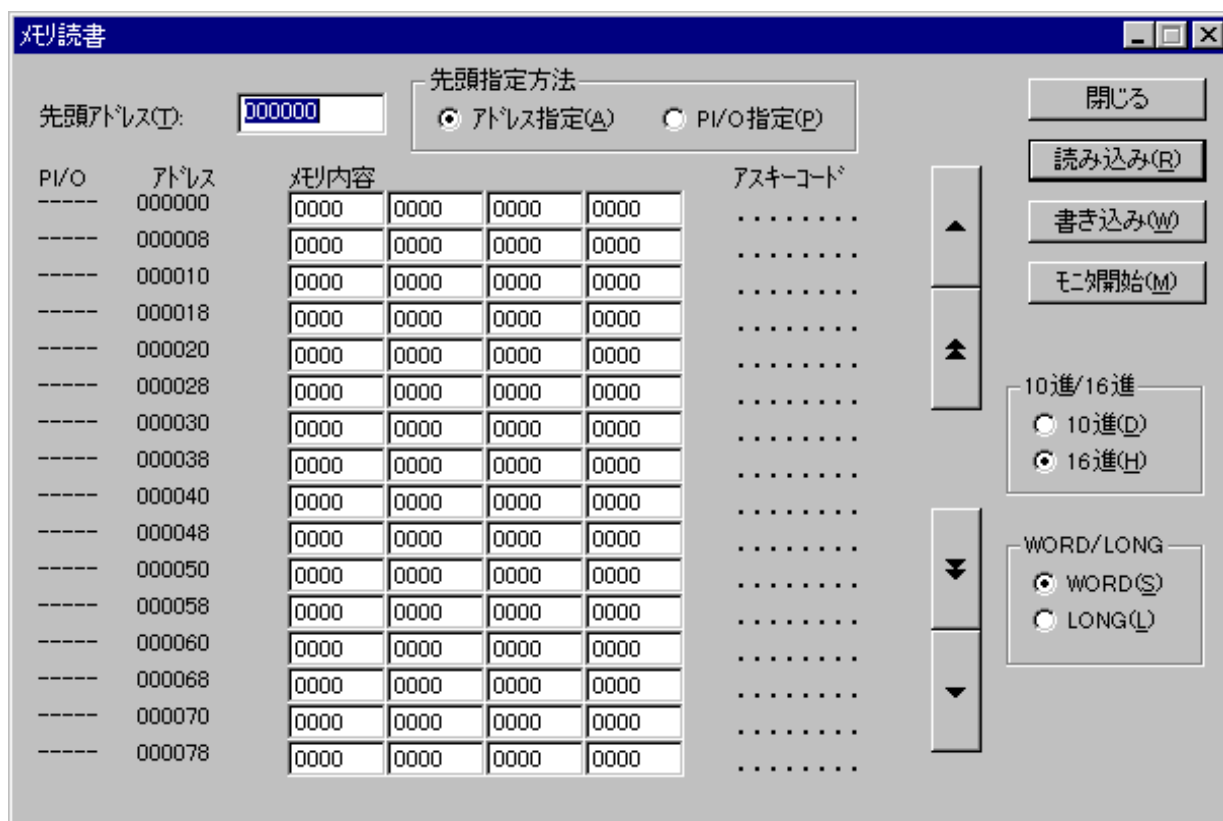
PI/Oのビット状態を設定し、**OK** ボタンをクリックします。

## 3.16 MCS

機能：MCSを表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [CPMSデバッグ]画面から、**MCS** ボタンをクリックします。
- (2) [メモリ読書]画面が表示されます。「先頭指定方法」を選択し、「先頭アドレス」または「PI/O」を入力します。



- (3) 指定した先頭アドレスまたはPI/Oを読み込む場合は、**読み込み** ボタンをクリックします。  
指定した先頭アドレスまたはPI/Oに書き込む場合は、メモリ内容を変更し、**書き込み** ボタンをクリックします。
- 指定した先頭アドレスまたはPI/Oをモニタする場合は、**モニタ開始** ボタンをクリックします。
- MCSを終了する場合は、**閉じる** ボタンをクリックします。

### 3 コマンド

#### 3.17 接続PCs変更

機能：PCsとパソコンの通信種類を設定します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [ CPMSデバッガ ] 画面から、 **接続PCs変更** ボタンをクリックします。
- (2) [ 通信種類 ] 画面が表示されます。



- (3) 通信種類がRS-232Cの場合、「RS-232C」のラジオボタンをクリックし、「通信ポート」を選択します。





- (4) 通信種類がイーサネットの場合、「イーサネット」のラジオボタンをクリックし、接続先の「IPアドレス」を入力します。



- (5) 通信種類がGP-IBの場合、「GPIB」のラジオボタンをクリックします。



- (6) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

ご利用者各位

〒101-8010

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地  
株式会社日立製作所

お 願 い

各位にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この資料をより良くするために、お気付きの点はどんなことでも結構ですので、  
下欄にご記入の上、当社営業担当または当社所員に、お渡しくださいますようお願い申  
しあげます。なお、製品開発、サービス、その他についてもご意見を併記して頂ければ  
幸甚に存じます。

ご住所 〒	_____
貴会社名 (団体名)	_____
芳名	_____
製品名	_____
ご意見欄	_____ _____